

## 「期待に応える技術者へ」

サカタインクス株式会社  
第三研究部 北河 瑞紀

私は、2020年3月に大阪大学 工学研究科 応用化学専攻 博士前記課程を修了しました。所属研究室では、木田敏之先生のご指導の下、超分子化学に関する研究に励みました。優秀な先輩、同期、後輩にも恵まれ、充実した研究室生活を過ごすことが出来ました。その後、サカタインクス株式会社に入社し、現在三年目になります。今回このような機会をいただきましたので、研究室時代の振り返り、これまでの社会人生活について、そして今後の抱負について述べさせていただきます。

### 研究室時代

私が経験してよかったことは、新しい発見が起こる瞬間を目撃できたことです。私の研究室では雑誌会という、学生が自身の好きな論文探し、研究室全体に向けて発表する会があります。当時の私は実験してもなかなか進捗が出ず、研究に行き詰まりを感じていました。そんな時、先輩が雑誌会で発表したある異分野の論文が私の研究に生かせそうだと木田先生が気づき、私に「自身の研究に取り入れてみたらどうか」と、助言を与えてくれました。最初はそんなにうまくいくわけがないと思っていました。しかし、その論文とその分野に関連する論文を読み込み、得たインスピレーションを自身のテーマに融合させて研究を進めたところ、とんとん拍子で進捗が得られ、新しい発見をすることができました。よくイノベーションは既知のアイデアの掛け算から生まれると言われますが、まさしくそのとおりであるなあと学生ながらに実感したことをよく覚えています。

### これまでの社会人生活

まず初めに、私が現在働いているサカタインクスについて、簡単に説明させていただきます。サカタインクスは、主に紙やフィルム用の印刷インクの開発と製造をしている会社です。しかしインク事業だけでなく、インクの製造で培った様々な基盤技術を応用展開した新機能性材料事業も行っています。また社内には3つの研究開発部（第一、二、三研究部）があり、第一、第二研究部がイ

ンキ事業を、第三研究部が新機能性材料事業を主にそれぞれ担当しています。

入社してから私は第三研究部に配属され、その中でシロキサンポリマーという樹脂を用いたコーティング剤の研究開発チームに参加し、これまで研究開発を行ってきました。シロキサンポリマーとはケイ素（Si）と酸素（O）が交互に結合して形成された高分子のことをいいます。シロキサンポリマーは、その特徴的な結合様式から耐熱性や耐候性、化学的安定性などに優れ、様々な分野で用いられています。少人数からなるこのチームで一丸となって、新たな事業の柱を立ち上げるべく顧客からの研究開発案件に取り組んでいます。しかしこの分野は比較的社内としては新しいテーマであり、社内に知見を有する人は多くありません。また高い要求性能を求められることも多く非常に大変です。しかし新人である私の意見でもいい意見であれば、開発に大きく貢献できるため非常にやりがいを感じます。

とはいえ入社1年目は、上司の言われた通りに仕事を進めるだけで非常に受け身でした。しかし1つの経験を通して仕事への姿勢が大きく変化しました。それは入社2年目でのとある開発案件を通じて得た経験です。それまでは私を含めた先輩と2人で案件を担当していました。しかし急遽先輩が退職され、この案件の担当者が私だけになってしまいました。指示を待っていても何も進まない状況に直面し、そこでようやく主体的に自ら考え仕事していく意識が芽生えました。当時はとにかく何とかせねばという思いで、種々の特許や文献を読み込み、現時点の開発品に積極的に種々のアイデアを組み込んだ製品の開発に取り組みました。木田研究室で学んだ既知のアイデアを掛け合わせる大切さを生かしてあきらめずに実験に取り組んだ結果、周囲の協力もあり、なんとか顧客の要求性能を満たすサンプルの開発に至ることができました。

この経験を通して、受け身な自分から脱却するとともに、自ら考え意志を持って周囲を巻きこんで行動することとアイデアを組み合わせることで製品へと昇華させることの

大変さと面白さを学びました。当時は不安でいっぱいでしたがいい経験ができたと思います。

### 今後の抱負

最後にこれからの抱負を書きたいと思います。私は自己研鑽を重ね、付加価値の高い材料を創出できる技術者になりたいと思います。社会の発展とともに、顧客の要求はこれからますます高くなっていきます。そのような顧客の期待に応える材料を生むために、いろんな知見やアイデアをうまく組み合わせて研究開発をしていくこ

とが重要だと考えています。組み合わせるためにはそもそも種々の既知の知見を知っていなければいけません。そのためには常に勉強し、日々自身の知識を積み重ねて、なりたい理想像に近づいていきたいと思っています。

結びといたしまして、このような執筆の機会を与えてくださった、恩師・木田先生に深くお礼申し上げます。

(応用自然 平成30年卒 応化 令和2年前期)